



國姓爺明朝太平記  
下



遠近  
66号  
JL



好文堂



國姓爺明朝太平記

他若其蹟

五之卷目錄

明治三十九年九月十一日 購

親子信の渡り紙の入羊の榮貴

二渡りの人よ雁書そとと源芝豹

容み秘とくりののと知國の歌の

親の不足ハ子ガカとのとれカしら草

速 冊 664 卷 3

四十四

養ひ親の心申的しきぬ共おら蓋

如願の像大右左車ハ果却れ基

落人とおさぬの戸物活ハ巻行万禮

邪姑の積まき邪取字も喰ぬ六子

喉分り兄弟此實もは橋本け娘

関がと氣おのめ二階の邊をまわ

親と子縁切て出に自髪首

赤子義はわり実子の毛育

親子ほびれ洞紙の入羊乃養費

とそま右に龍が逆の處取しとかの子勢をけり六五附

る鉄平とつはちつと累的園をそあをりおつとびやう

氏名乃賊を掃老人此女お娘とてい摺り又嫁我をわさひ

抄る三百姓をさる。女おおまつとめを折さうと廻るお

附刺遠ひぬと首をさうと古舞をひとみさぬく此西洋園も

わてられぬは牙をりお姓おひのしはてをそのびくみと

おられま。とくうらさるゑ又攻滅さるんハ又お秋の強意園

よの教のまきり一両はちつと教をさるんハゆと大事をう

と其釋のう。内裏もも復させ。を身ハ二カれ軍を率て

累的園ハとあもむとる。附る鉄平累的園は屯まき民間紙



宿願を遂げし帝は世に乃時勅勅を賜り。日本へ還るるに  
 母をたて文れ給ふ乳母をそへ養ふ旨を命じけり。是約より  
 出づりて。身は和志のりて。その時。是約を討つ所と  
 申す。家来を命じけり。家来を命じけり。かひ。家子方後と  
 書合ふれ。まゝりて。むすむ。若代乃。船島をせん。と。父母は。船島  
 幸ひ。ひて。船。と。深窓の中。に。や。さ。ひ。か。苗。今。の。稀。なる。夫。私  
 死。し。う。推。花。の。脱。れ。ぬ。と。言。て。塩。の。り。あ。ま。り。一。枝。乃。履。あ。ま。り  
 か。し。も。り。二。八。花。の。産。と。其。釋。は。の。を。て。よ。り。ひ。ひ。あ。と。か。き  
 嫁。物。と。も。め。妻。と。せん。事。の。を。と。れ。は。海。島。を。め。り。ひ。代  
 わ。く。も。り。と。金。銀。と。は。と。言。る。れ。は。ま。ゆ。一。生。あ。あ。ま。り。と。言。り  
 臣。乃。心。付。あ。る。ら。ふ。ら。め。も。嬌。を。ま。と。へ。と。言。る。志。を。る。る。も。其。釋  
 恨。ひ。金。を。ま。と。て。む。え。り。有。れ。妻。と。も。て。り。家。子。乃。可。れ。か  
 事。は。あ。り。と。も。を。と。採。は。他。由。と。て。父母。金。銀。と。も。と。娘。孫。孫。女  
 と。か。り。り。事。と。も。り。ん。家。と。も。り。の。舞。と。も。り。と。恨。ひ。び。母  
 孫。と。事。の。と。明朝。の。帝。つ。つ。と。ま。る。身。と。も。り。と。他。の。ま。ま。の。口。と  
 と。と。く。お。後。の。の。あ。中。途。と。も。り。の。妹。乃。徳。村。の。孫。子。ま。ま。け。の。過  
 分。れ。事。と。も。り。と。つ。つ。と。言。り。あ。親。の。恨。を。承。て。あ。面。し。身。釋  
 小。の。事。と。も。り。と。大明。乃。ま。ま。れ。る。と。も。り。と。又。他。の。ま。ま。り。せん。と。あ  
 け。や。う。ひ。ま。ま。と。も。り。と。言。り。あ。親。の。恨。を。承。て。あ。面。し。身。釋  
 養。養。と。も。り。と。あ。め。く。村。里。と。も。り。と。言。り。あ。親。の。恨。を。承。て。あ。面。し。身。釋  
 と。も。り。の。け。り。あ。る。れ。あ。ま。り。と。も。り。と。言。り。あ。親。の。恨。を。承。て。あ。面。し。身。釋  
 養。養。と。も。り。と。あ。め。く。村。里。と。も。り。と。言。り。あ。親。の。恨。を。承。て。あ。面。し。身。釋

恨ひ金をまとしてむえり有れ妻ともてり家子乃可れか  
 事はありともを採は他由とて父母金銀とも娘孫孫女  
 とかりり事ともりん家ともりの舞ともりと恨ひび母  
 孫と事のと明朝の帝つつとまる身ともりと他のままの口と  
 ととくお後ののあ中途ともりの妹乃徳村の孫子ままけの過  
 分れ事ともりとうつとやうあ親の恨を承てあ面し身釋  
 小の事ともり大明乃ままれるともり又他のままりせんあ  
 けやうひままともりと言りあ親の恨を承てあ面し身釋  
 養養ともりとおめく村里ともりと言りあ親の恨を承てあ面し身釋  
 とまのけりあるれあまるともりと言りあ親の恨を承てあ面し身釋  
 養養ともりとおめく村里ともりと言りあ親の恨を承てあ面し身釋



お高とあつて書はれ後とあつめく舞舞志とあつた御持  
女かんごとくしりれ福と皇女とは侍して破石のありごと  
あらざり。後人れ牙のあき。さるるに過雲由初の新徳れ  
あまられいせくたるととと。墨た大の都とと声な新をひじ  
乃の男れえりも胸さるるごとくあをるりく。なあもあつる箇の  
時とつと。東のく人きつまる内はあはるるあつるあつる  
つひぞせつるをたれサ日美津は月白く。一墨塚のあまちりくと  
大れとあり新は角中ととる男れとととあつる。さそまうあ  
とらと。追剥ととと。後行女むひとまて。まの角のあつと  
てまう。方新ととと。みとと。かから。頼切とんと皇女の  
とと。引とと。同じとつと。とと。りたれ。六。隠。是。新。たて。とと。と。地

さあつらと。やい。お仕舞の。大。墨。前。れ。女。者。美。り。御。り。が。ひ。いと。皆  
る。氣。を。待。て。し。と。う。あ。く。あ。つ。あ。い。う。今。時。う。お。仕。舞。と。と。る。か。う。さ。つ  
よ。の。仕。合。と。と。ま。し。と。新。あ。つ。あ。の。く。と。ら。ひ。と。青。れ。お。仕。合。と。と。を  
の。と。う。と。と。ま。ま。の。り。と。下。さ。れ。ま。と。ま。の。を。新。り。あ。つ。あ。と。新。あ  
あ。と。と。ま。り。て。ま。ま。ま。ま。あ。つ。と。と。ら。く。と。と。ま。よ。れ。二。人。れ。今。と  
し。ふ。か。て。ん。由。と。月。新。ま。れ。い。よ。の。年。れ。あ。つ。あ。と。の。じ。う。新。あ  
け。と。と。と。あ。つ。あ。と。と。な。ら。う。と。と。の。芝。新。皇。女。れ。新。あ。と。と。と  
え。と。と。と。と。ま。ま。の。と。の。と。の。と。の。上。官。志。や。と。ら。ち。へ。と。と。御。り。ま  
あ。と。い。が。新。あ。の。あ。お。海。り。う。あ。つ。あ。の。あ。つ。あ。と。と。ら。う。と。と。ま。ま  
と。の。の。新。あ。女。と。と。ら。ら。新。あ。の。あ。つ。あ。の。あ。つ。あ。と。と。ら。あ。と。と。の  
と。ら。ち。へ。と。と。ま。ま。と。と。の。と。の。と。の。と。の。新。あ。の。あ。つ。あ。と。と。の

少ととの君とされが方ありてはさうもが人ぞとていひられしは  
 是約といふ人のいれぬものにおおなるは是約方とありて  
 下されたとのありは是約ありしは何のいふやや梅とあるや  
 か。ここの律身が旅人とある由は信ありて是れ養育あり  
 一といふや。いふよりいふはちかぬものきやとふとてさうを  
 扱ひたるはさうありしは娘の御孫女とて養育とて大なる  
 の親とていふまじりませし。あるして下されませとてありしは  
 是約ありしはさう。後娘とて女は身とて養育は親の所と  
 有ありしは何用ありしはも。今いふは女中か。女中か。わ  
 せの御孫女は養育。後世とてわしくは是れ方宮と相いふ  
 ありしはさう。いふは娘とてさうは養育といひ。いふは女中とて

所とてさうか。は養育なよとてさうの分がさう。いふはよ  
 にさういふはさう。いふは血とていふはさう。いふは二  
 育とて親とていふはさう。いふは養育は親の所とていふは  
 養育は親の所とていふはさう。いふは養育は親の所とていふは  
 つとていふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは  
 実のいふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは  
 類のいふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは  
 とさう。いふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは  
 とさう。いふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは  
 のさう。いふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは  
 世界れ女のさう。いふはさう。いふは養育は親の所とていふはさう。いふは





おもふよりりく對面あれとの芝約せんまうて是も人  
 とあそびよきのせねあはれ誰かと肉をくられたらてき伝  
 へたり一若二官場の由つ孫の経緯合をまひひひりとかま  
 兼輔のけのちてなる二國婚儀の編うけくわはれ女房の  
 ともやよひ一方豊盛餅の欠きあがりてあそび合せり  
 ら何と芝約命あれ再志のそとあはれ下まらあそ  
 よりん年がよぬ田中よりてそとてかろき事とまひ又りと  
 のせあわつてききいよと御あつてはりよふ言が二月の  
 三月にそれものやあつれまらつて男たつあつ二番てき  
 子よまを娘へ今い夫分仕合てまらつて此處後命よあら  
 ておろし今日夫のおらつてまらつて孫を事てとらと孫孫女  
 と親子れなはりしてあつてとらつてまらつてのまらつてとまらつて  
 まんまらぬあつて芝約むらつて一官女男たつあつて  
 はねあつてわらつて物とよのむ人らつてけつあつてとらつて  
 男あつてまらつてゆはけつあつてつなはれん人としてねま  
 宿中事へあつてつなはれん女えとまらつてあつて娘孫女あつて先  
 希れ娘あつてあつてまらつてまらつてまらつてまらつて  
 は女房あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 又洞七神あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 がてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 やとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 事はあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて















身は後命まされぬらぬさあけりしきおの申せしつゝん子と云ふま  
きて涙のたはみは榮花れ身まらあや又い信とあつゝあせて娘の  
ほれ其の指と極くやあや一つやうれあ人そらとらひて後命  
まらるあゆと血をまけし實れ書親と大幸いあむふつゝ又こ又あつ  
し便糞さつゝ書着志し書ひ親を大印をたもふつゝんつゝも  
まらるるこさるらあけりしきおの申せしつゝん子と云ふま  
まらるるこさるらあけりしきおの申せしつゝん子と云ふま  
まらるるこさるらあけりしきおの申せしつゝん子と云ふま  
まらるるこさるらあけりしきおの申せしつゝん子と云ふま  
まらるるこさるらあけりしきおの申せしつゝん子と云ふま

とらけらるの中とてこかれとてびんるらあけり  
候分れ兄身をも實ともは橋本乃娘  
血をまけし一書親の母の心よりまらるる嬰児の胸の書着  
れあがりし書親のあま書海よりまらるるびんるらあけり  
おどろろとてあつゝん子と云ふま  
あやあけりし書親のあま書海よりまらるるびんるらあけり  
てゆふあかりし事れ久しと書親の書着れあけりし書着  
あせりし書親のあま書海よりまらるるびんるらあけり  
おどろろとてあつゝん子と云ふま  
あやあけりし書親のあま書海よりまらるるびんるらあけり  
てゆふあかりし事れ久しと書親の書着れあけりし書着

おちりぬい新子法とては無名とありありぬい事とていふことである女  
 一宮女をいづれをかりしめせぬい方れをも今日より改りてまゝを遣  
 せんとえれまゝとて今日よりまゝとぬいはむ方とていひて今日より  
 せむれまゝとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 してまゝとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 多とまゝとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 友とまゝとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 一とまゝとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 難れぬことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 ことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 のことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい

一とまゝとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 事かぬことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 とて大町の方へはむ方とていふことぬいことぬいことぬいことぬい  
 乃建芝野をぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 事かぬことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 とてわの事柄の中へ入事とていふことぬいことぬいことぬいことぬい  
 ませ方れがぬいことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 二階の物とていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 方れが入事とていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 一人ひそりぬいことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい  
 久しとていふことぬいことぬいことぬいことぬいことぬい



廿六卷



州を以て東より西に仕留め人者ぐのこころなるに委せしめて人の  
 忠義は情を以て成るとし。親とてその名を著すと世の人々ありせ  
 らるるの忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 とし。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 せあり。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 の忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 きてや。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 する。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 う。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 忠功の臣と。後代に武士の義を以てまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 しんを以てまのりのまを以て南の國を以て行人経義

世るれ人又親き。う指させてあり大。その名を著すと世の人々ありせ  
 らるるの忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 入時精進。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 づ。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 なる。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 が。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 ぶ。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 ら。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 去。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義  
 む。その忠義はまのりのまを以て南の國を以て行人経義

かく一葉世よみかぬよは克爾うつてとあはれまど。親れ為ま子  
 けなとよとよの考ひれなるとけしほ。押へ抱えんと青より心と  
 雲に約きたるえんまそと父と二而大明れは味方し七。是に  
 まよひとり後びれまうとわ。新業れ功もさるこ業を悪者れ者と  
 見とあれ。大おの信よまを補せも。悪業をく。信より。飯よか。飯より  
 身よ。おぬい。存。悪の。ま。ま。う。か。く。い。か。は。皇。女。れ。身。も。し。れ。中。何  
 もの。あ。と。せ。ま。大。明。方。れ。考。と。二。人。悪。名。代。は。信。つ。つ。へ。を。人。と。以。存。南。方  
 へ。信。し。と。今。と。れ。私。の。母。と。信。し。も。と。ま。う。と。人。方。の。一。を。も。ろ。紙。換。よ  
 う。一。の。信。方。は。れ。業。が。中。う。わ。り。と。仕。の。皇。女。さ。魚。の。ま。ま。に。は  
 ろ。く。い。び。を。と。信。ま。の。信。づ。ひ。あ。つ。つ。づ。も。と。二。人。敵。方。つ。つ。ろ  
 ま。し。つ。た。れ。お。ぬ。い。の。母。と。信。し。と。ま。う。と。人。方。の。一。を。も。ろ。紙。換。よ  
 されと。見。の。心。を。さ。う。ろ。う。と。し。め。め。の。克。爾。と。あ。ん。が。ま。ま  
 け。ま。志。の。方。つ。つ。ろ。え。れ。今。と。れ。母。と。う。ま。れ。と。使。り。の。皇。女。さ。魚。れ。は  
 味。方。と。し。と。い。の。ん。忠。勤。と。い。げ。と。今。と。な。る。内。裏。運。轉。あ。り。ま。は。七  
 え。が。う。女。と。の。し。さ。が。う。又。も。を。母。親。が。甘。房。自。余。れ。女。と。と。ま。れ。方  
 あり。い。ろ。う。お。ま。ま。う。と。大。功。も。あ。り。ま。ん。と。わ。く。い。ま。め。つ。い。信。と  
 紙。と。信。し。と。ま。り。一。信。び。い。と。む。心。を。け。け。さ。ま。も。と。又。い。び。ん。の。是  
 約。が。あ。り。と。う。く。自。余。れ。若。う。つ。つ。と。と。と。も。方。も。あ。り。と。い。わ。る。る  
 の。如。く。と。ら。と。敵。は。一。海。の。血。と。ま。は。い。ま。ひ。さ。う。ら。の。あ。も。と。わ。敵。へ  
 ま。ま。と。ま。ま。一。守。り。の。書。子。信。も。う。と。ま。う。け。し。と。せ。れ。人。の。嘲  
 曝。せ。り。て。た。身。が。一。ち。う。り。と。う。ら。れ。い。行。行。と。と。そ。の。い。や。も。と。親  
 ら。れ。た。大。明。の。家。来。ま。う。と。ん。の。悪。ま。ら。る。相。と。事。よ。ら。と。と。う。け。と。敵

けさうしてとある奴もむしてとまうせが。かく私身人と  
 およまたぐひは並いもあつても青よりれたる三階より老一皮は  
 のどろちとわらひ。が。あ。う。の。と。ひ。あ。り。ね。お。く。い。せ。の。精。女  
 氣とまをり人へりね。と。姫。御。様。女。は。産。の。子。り。の。ゆ。き。さ。り。後  
 實の御はは。言。う。身。あ。つ。て。の。娘。と。ま。い。く。ふ。ま。り。元。来。と。ん。ね。  
 の。そ。ま。ろ。根。を。か。か。り。ま。う。事。ま。た。あり。九。十。ま。ま。ま。は。今。の。ま。ま  
 ね。あ。ま。れ。お。よ。復。ま。う。は。ゆ。ら。ま。る。杖。を。見。つ。つ。ら。ん。ま。今  
 青よりん。と。わ。ら。も。あ。奴。よ。か。り。も。あ。つ。て。あ。つ。た。九。十。れ。お。わ  
 り。これ。と。ひ。お。し。う。ら。つ。て。ゆ。き。ま。う。る。程。き。れ。い。も。お。つ。う。う。大。ま。ま  
 ま。人。へ。の。志。ま。ま。う。つ。鏡。を。か。つ。つ。ひ。つ。れ。な。い。お。あ。り。う。ろ。を。照。は。す  
 ち。あ。り。の。御。持。の。ひ。侍。せ。ん。と。あ。り。う。ら。も。の。狛。権。の。西。は。侍  
 か。つ。け。ら。も。し。て。と。と。あ。り。ら。ん。ま。後。推。考。の。と。ま。り。ら。ひ。く。事  
 と。鉄。砲。を。あ。ら。る。事。も。も。と。く。ま。し。て。め。ま。う。く。新。と。な。ま。け。ん。あ  
 る。方。一。路。ま。あ。り。も。ま。り。ん。出。身。を。れ。い。承。歴。帝。れ。は。あ。ら。う。と。生  
 て。も。あ。り。て。一。宮。と。ら。ひ。ら。い。と。教。れ。方。つ。ら。り。れ。い。ま。あ。い。息。を。報。せ。し。と。う。ま。の  
 意。の。首。を。教。れ。方。一。刻。も。ま。う。つ。ら。い。も。後。ま。り。つ。ら。つ。て。の。は。時。方  
 と。頼。む。も。と。細。ね。も。持。て。杖。と。杖。首。を。あ。わ。せ。い。と。か。い。切。て。あ。つ。つ。て。を  
 ち。ま。も。あ。げ。か。ん。づ。り。い。ん。て。ま。う。た。い。ん。も。ま。ま。う。げ。た。ま。あ。い。も。あ。く。位  
 なる。可。れ。威。で。地。ま。ま。あ。り。お。居。る。と。首。を。ま。う。て。悪。物。を。入。お。君。徳。の。下。令  
 お。び。て。お。克。商。方。つ。い。板。を。ま。あ。り。つ。御。舎。御。面。ま。う。つ。び。甲。を。も。店。の。せ  
 別。業。に。せ。や。う。と。と。こ。ろ。た。う。さ。偽。西。伏。は。は。と。あ。り。ま。後。あ。り。は。ま  
 ひ。ら。も。あ。ら。う。は。浦。船。は。帆。を。あ。げ。て。お。寧。ろ。船。と。い。ま。た。け。家

西の巻

三

四姓部の朝名系記立之巻終

四姓部明訓系記

作者其碩

六之巻目錄

花柳杖箱はなうしわけわけてて足あし摺すりわわ口くち

高たかいい位ゐ子このの建たてて馬うま一いっ層そう人ひと

金かねぬぬ酒さけののかかええててししらら福ふくのの上うへ戸と

ゆゆはは口くちととああららいい見み商しやうがが家け集しゆのの弱じやく味あじ曾そう



後宿坊火の立付け水臭い

悉く月立衣袈裟錦倉出立

いよけまき垢とぬく風呂わがり

火燭の中へ懸け打てゆく鹿毛衣

日幸の風は梅て冬姿見せ

唐堀堀唐堀堀とまき松女町

おさへの巻紙ころりとかけら百折鏡

折紙つてもあそびの百歳り凱音

飛脚乃状箱あけくまは松乃

永曆皇帝駐居石門池のあまびやとれおひ。金陵の教

と忠厚母解切ぬのやうく佳き一とく。志らくく菊仙のま

の身とかくされ世とれ様さあごひあふふあふ。國姓爺さうさ

のうと統制して軍兵さうまねさをも金陵さうさうさうさ

事解つて入るる。一刻もゆるみせんやうと。成安寧の事

り。せめてお身体もまんまんと南仙のまひそりお供り

出十吾方系れお袖小きのまがみのまをまの。蒙れゆるよはさき

おせまうせがんとおはるれおと九日陰と掃り。虎崎の禁る

松杉のり。後乃と釣よまうまうわあまをさうさう。月日わさうかあ

まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

あきつふ家の此の若のまらと花あつり帯に落るわめて  
 此勝よりしに御いどの様をわたりたれかかんとおそろさくはたかき  
 懐中より書を出し書んぱらうとせむ人にとは勝の痛つとく  
 御もよめさる事とぬがてまづ素乃落れむとあなりのあつ乃  
 妙業をまかんとおは懐中へさうあきまう一席は袋角も華の  
 とまけ刺もんとさうりらうめ酒は妙業の酒とのけけらして  
 那ひそれさうしとありおれた今酒とともんも三里もはく  
 うへ渡りて人里さうとあるん何とせえとせうもあつわかれ  
 とそくぬる前をさうし使えぬとあつて二人の状をさうし今人  
 の書持とさうしおれあて暮りまらうかんとさうよりえ天れ御を  
 さへの帯をまのねと括えさうとせむりは形は書と打書ひの書懸さく  
 は彼もあつておのたし打ちしむをけ華あつる事あつる事  
 後のお孫人あつたか輝さうしあつてあつては今書言はり勝とさう  
 打りさうのお孫人あつたさうと懐中へ落れは妙業持来はつた色と  
 たらあつた酒をさう飲まはる痛さうとさうとさ付あり御先人家  
 締あつる酒をさうあつとさうとさうとさうとさうとさうとさうと  
 ころり事はさうしさうし一口酒をさうとさうとさうとさうと  
 たのさうとさう二人お孫人あつてはさうとさうとさうとさうと  
 とつてさうの自分さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと  
 又さうとさうお孫村のさうとさうと酒とさうとさうとさうとさうと  
 とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと  
 事とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

かまひつ。ゆまへよりさきよひかきしるす。持るれは。任のまへく。り  
 不替<sup>たがはず</sup>とて。もよて。口<sup>くち</sup>と。うし。あとの。事<sup>こと</sup>を。む。極<sup>ごく</sup>す。あ。先<sup>せん</sup>者<sup>しや</sup>の。業<sup>わざ</sup>  
<sup>うら</sup>を。く。ま。ひ。口<sup>くち</sup>を。切<sup>き</sup>て。む。あ。う。と。人<sup>ひと</sup>に。病<sup>やま</sup>ひ。を。な。は。け。れ。一<sup>いつ</sup>。念<sup>ねん</sup>を  
 と。う。く。い。ま。に。は。れ。人<sup>ひと</sup>の。ま。う。て。任<sup>にん</sup>れ。を。さ。た。ま。ぬ。もの。ある。持<sup>もち</sup>れ  
 任<sup>にん</sup>人<sup>にん</sup>も。せ。よ。又。ま。う。持<sup>もち</sup>り。う。く。ん。れ。今<sup>いま</sup>も。せ。よ。は。子<sup>こ</sup>も。ま。あ。て  
 け。あ。考<sup>かう</sup>特<sup>とく</sup>有<sup>ゆう</sup>の。志<sup>し</sup>に。心<sup>こころ</sup>の。先<sup>せん</sup>え。と。却<sup>かえり</sup>て。磨<sup>かみ</sup>を。た。と。う。と。び。り。曹<sup>そう</sup>の  
<sup>こ</sup>孟<sup>まう</sup>孫<sup>そん</sup>。稱<sup>しょう</sup>も。あ。く。麻<sup>ま</sup>の。子<sup>こ</sup>と。ら。奉<sup>ほう</sup>西<sup>せい</sup>巴<sup>ぱ</sup>。の。の。も。あ。ま。う。お。せ。海<sup>うみ</sup>う。け。し  
 ま。麻<sup>ま</sup>の。あ。か。り。が。り。く。任<sup>にん</sup>と。ま。し。た。ら。め。わ。ひ。び。た。れ。奉<sup>ほう</sup>西<sup>せい</sup>巴<sup>ぱ</sup>。の  
 ま。り。た。ら。り。は。麻<sup>ま</sup>れ。は。ま。あ。ら。り。人<sup>ひと</sup>の。孟<sup>まう</sup>孫<sup>そん</sup>。も。ま。ま。を。う。ま  
 う。く。奉<sup>ほう</sup>西<sup>せい</sup>巴<sup>ぱ</sup>。と。極<sup>ごく</sup>し。ら。ら。ら。は。う。り。い。り。と。あ。ら。れ。ん。ん。ん  
 が。一<sup>いつ</sup>。身<sup>み</sup>を。命<sup>いのち</sup>と。な。して。麻<sup>ま</sup>の。子<sup>こ</sup>と。な。り。け。り。能<sup>よ</sup>る。れ。大<sup>だい</sup>天<sup>てん</sup>性<sup>じやう</sup>の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 て。麻<sup>ま</sup>れ。親<sup>おや</sup>子<sup>こ</sup>の。あ。り。と。い。た。ら。う。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>の。極<sup>ごく</sup>あ。ら。れ。ん。ん  
 西<sup>せい</sup>も。り。高<sup>かう</sup>お。お。ひ。う。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 ま。ま。ら。う。ら。う。ら。う。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 ち。の。ま。ま。ら。う。の。い。は。れ。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 ち。の。任<sup>にん</sup>と。極<sup>ごく</sup>と。な。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 又<sup>また</sup>お。ん。つ。れ。知<sup>し</sup>り。と。り。は。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 ち。の。れ。と。神<sup>かみ</sup>政<sup>せい</sup>も。あ。ら。う。と。西<sup>せい</sup>も。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 信<sup>しん</sup>も。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 兄<sup>あに</sup>弟<sup>てい</sup>れ。れ。り。の。任<sup>にん</sup>と。極<sup>ごく</sup>と。な。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 ち。の。い。り。の。い。り。の。神<sup>かみ</sup>業<sup>わざ</sup>も。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る  
 ち。の。い。り。の。い。り。の。神<sup>かみ</sup>業<sup>わざ</sup>も。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。あ。ら。れ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。の。任<sup>にん</sup>に。い。る

四ノ巻 十六卷



まうかあしと足るるものそ其様むとらひあう天のあはれは  
とれうへて六帝れゆ徳とたけしこと終り又うへつて持持  
る中郎れあはるるのくすをせ今二人れ若もさうく六徳務とえつ  
と。しよとやちよしよとさうして二人をよあはれあはれ  
つのはさうとせとぞ一切務に付する若しして酒をりし。え若  
まんとさうれく持持てつ酒のわいさうとせられぬはう  
てあはれ鼻のあはりしことせせられぬは鼻をさうくけし  
何ともぞんれあはぬ酒なりとせしとれ酒ふとせしあはれ  
ねい。さくし。解あはれよとて。我毒持してさうあはれと持  
てあはれとせつ。らぬぬとさう酒を我とせとあはれとせし  
毒の徳とゆゑる酒のある酒と持のわいさうとせられぬは  
髪れ生膚今あはれ其様むとらひあう天のあはれは

とて二人れとせつ。らぬぬとさう酒を我とせとあはれとせし  
いづれものあはれ何れはあはれ女子は長。ありやいよせも  
さう二人れとせつ。らぬぬとせしとれ酒ふとせしあはれ  
とあはれ二人れとせつ。らぬぬとせしとれ酒ふとせしあはれ  
五井崎子河克廣の遠居方れと二人れとせつ。らぬぬとせし  
方とあはれ。さうとせしとれ酒ふとせしとれ酒ふとせし  
あはれ。我れあはれ若の事とせしとれ酒ふとせしとれ酒ふとせし  
そ若れ又二人れとせつ。らぬぬとせしとれ酒ふとせしとれ酒ふとせし  
とまのりあはれ若酒回あはれあはれ酒のわいさうとせられぬは

と申さるかんとし子細とていふ。扱ひ首の鬘へ唐まであるなりやと  
ふくしとれはうごひとさるに都美純の首級とておぼろしくいふ  
むろておぼし扱文おぼしむらとて扱とんれは只今とこれに存恩と  
謝見ごうのし務純のせと友が首と討てなる。且又親族の御子あり  
て今より永唐皇幸れの時方と仕ゆ桑下しとらうと取扱おびよ  
大おれ友とともふらうとてよ下。唐唐の約を愛いやありとて  
ありかんといふくおんとれとて親とらうに就ぬおれたつあやわらう事おの  
親万礼とのまとのいゆく名いとおねれたつあやわらう事おの  
物存女が兄と申らん事おびい。年らんまとの約を愛い。大明  
は美の時もやの危らうに唐をたよけとてとらうとて。かいつて首  
を討て今日う。敵とていめつは克商方へ使とてつらと事。と事

とら親の御ご。あやゆあもてと親の親万礼の兄と  
いふんをと親おれしとてあて。毛とらんおぐ。つらうと信言はとせんや  
が事とてとらうまひものでと。事女御存女と離別とて鬘方  
と親後とてとくせんやとていふとらうとらう。あられた物存女があよ  
けつ唐に美乃親喜文とえうとてとらうとらうと。と。事女を  
内裏の軍とてと唐河と。とらひ親の美純の白女と信依とてとら  
まれかおれ方とてとらうとらうと。と。事女を  
万礼とのすのとなとけあめとてとらうとらうと。事女を  
われいとてまひとてとらうとらうと。事女を  
とてとらうとらうと。事女を  
とらうとらうと。事女を

四世系  
六の系



ちいさき親とおのゝうかれをうしろよりせんよきとさうりかろく  
 毛きつけ親ららる務金ムシキネもよむむいなりあひけあきさうり務金  
 さすぶ親の子行ありを方うらと家さうりふ祖父一宮死ハハ  
 方れあありと幼稚ちうぢのうきひとみ我を祖父れ教と振ふるも今集  
 さうえとのうらわつれがうらうさうさまひ父さくせんやうらうら  
 さそ懐びまほせ我さうらうらうらあうらうらあうらうら  
 昔せつの死あふらうらと家さうりあうらうらうらうらうらうら  
 送りまりあくせんや對面たいめんして父の二宮家初はつみやの別夷族べつゐしゆくを打  
 ちらうらうら明朝の時代とらうらうら万幸ばんしやくのゆらうらうらおのゆらうら  
 とのうらばかれと務金の用とらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ありふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

金かね漢かん北きた郡ぐん王わう孫そん ありまきことのまきことのまきまうらうらうらうらうら  
 つらんとれ先毛をささうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 討うち死しはくせひよあうらうらむは合武あひぶ軍ぐんさうらうらうらうらうらうら  
 唐たう高かう祖そよりけまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 唐たう高かう祖そよりけまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 眞まとさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 せぬうちちうらんまうて父がうらうらうらうらうらうらうらうら  
 西せいの務金むしきさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 只今ただいま我と務金むしきあつて務金むしきはうらうらうらうらうらうら  
 祖父とあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら





おもたれ先後今とけとむ程さふらふとあもを幸に回たせ  
 ひまけさるまのあつてい教未がせ居務ねまふ兄弟がえれを言が  
 せむきまごうんとをまきめく回らせしと時編者のよりまふ  
 周とつらうく徳引さうとあくせんむよんをさうせんれんあが  
 むひんあれ徳つようけても親親の家の子をさうせんれんあが  
 親さうしてさうせんれんとまぬさうめむり親もあつとあつと  
 さひつあれがれ大うま面志してむむく又き約うとまぬさうと  
 かまひうらんをまうして武まてむみくは海つあれ親  
 子勉あさうとて老居のあつとあつとと命あつとひひんあつと  
 さつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 そと一進まけんて唐の正着とあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 徳の今有徳あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 まがもまて首あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 身くあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 三つあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 れ今のれとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 つとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 ぼびあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 さつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 奉れあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 らあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 何れあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

ひりりたるわらわのこころをわづらひておぼすも息をしてめをん力  
をしく死履とてつけ。身態と美艶が切なるに入致しついで固  
しうかの古今類もよむ。いとふり可憐と打ちつけて帯を帯  
腰へまのわけをのたふりつゝとせんしとるく松とせらるる宮外  
をひたひのまはこより縁にわらわのいかに少く起してこころを  
けしとるべし。追討もいひ改めぬ侍ることにあつて。しづかに胸を  
あてしこころをいともさく。お房の素襦袢をいともさく。お房の  
お女とてめまり。女中のかへ天唄のそごらふからんかく。梅とをり  
とる。いかにせんとおもひけつぐおんころは樹とまひつひの美艶に  
事とをわれび。喜も業はなあり。ももいとさうも人あつるも。珍  
おぼすとも。いかにわづらひぬ。かえりぬ。あつるも。お房の素襦袢をいともさく。お房の  
あつるも。いかにわづらひぬ。かえりぬ。あつるも。お房の素襦袢をいともさく。お房の  
あつるも。いかにわづらひぬ。かえりぬ。あつるも。お房の素襦袢をいともさく。お房の

四世...

...

あていと死ぬかんとせ戸。身よまきし用をききその美楽が有る  
身今おとりの戸あり。そくまのさうらうらひ其舞をいふおの光  
とつがゆく後より追付しなれりと舞のうらをとおもて人をな抱し舞  
れ方よ同じのくは合のふよ。方後火をきし舞舞りてよとけき  
家内かろんさきさかたあし橋よとよ平しとあえうの強動さるあ  
まふれがんをいばをけしてあふくとさかまおれきり。まゆをき返  
たり。人改めれ大羽羽羽は商人をさるあおの舞舞りしとるにけり  
けりうては宿を廻りし火災をきとさあうとよ平人たよらひ  
火をきせその西と方後火輪の中より飛せつ飛とさ一刀よ切  
まて。やうて首を切りて舞いんとさるうら。大勢れ商人たやま  
は船をうらるせよそのあまをさるうらあおとれ。さう方よりとり

まけ六又火中いよびぬ。ねのぐれぬ西とさり人よおかり死るん  
りことのもしと美れ中よ入焼死する火をきあ。せめてま人の歌の  
かこの焦ろろかりた引おせと。焦りさびごら打さてくさるあま。  
火中よりとてお難考を切て六又火れ中へけり。火輪れ中を  
撒撒りてうらるさるうら若老とあはくおらひよよ飛つてり。うら  
あしと火れ中よのさきうくと。さきと人よあひ付り。さびれ舞  
の強中石門花とけ者とも。火甚弱がるた骸まで。強さこのまど火  
舞やまてはり。さきをきとさるうら。おれまよ又う舞たれまよあ  
石門花う首さきけねびのさる人よとさるうら。さきをきとさるうら

日本の風は舞し。くさるうら。安見れ女。舞  
芙蓉の西れ。く柳の眉。く似らるとあひ。たん揚。舞れ。さるうら。慶の



時俗とてうねげの世のときより、  
曲六のうねびのよき世にて、  
わらひ何通りぬりて口紅をく、  
物帯も金入の今獄とむむびちり、  
せうくもさつげくもせと今迄の癖とて、  
奇れつまるせんく。びらひ時をて、  
まゝ南条人形はく。男はる申さるるとい、  
や帳をあけつてもさうごまれの由ど、  
やうさしむもさうさうさうと、  
軍法もその海りも祝儀のほかるひ、  
重後とせむとと。武具もるる、

頻りのかるる。皇帝皇女孫程女、  
其程可程も懐仕り。延年王乃城入、  
経の程もさうく。老下程の首と、  
成功まの奉着。まね又の首級とむ、  
命とてあつ事さげと。此中の程、  
法眼もさうく。やさんと。まから、  
臨ととひ。その身も。ゆきを、  
立後北御殿。美向。一其程可程、  
重後。美わりの。これ少敷元を、  
たのけ。やうび。おと。まんと、  
るんい。まも。今方。百戦一勝の軍と、

四ノ巻 六ノ巻



て死にまはすとまゝめ敵の城を獲て一人を生まて強んとすひ  
あつたつてとすられたかんをまうくも命に毎のびたは二は是れ  
れ軍を名候へ命を獲た者ももうりく。是も後ひりくと戦功とす  
つとつえ。かゝることもまぬらるるやあわつとと信ねよひ首を傳へ  
軍勢をわつめあつたれ敵合二子方八子金勢をあられ敵兵をま  
うぬれれ獲た者も一りもみとて出たりきり。お陣の刻定ま受  
つてまうつとすまわく威をまのりたれ。軍勢あやあひりるる放  
そとひそりたわつがんと天文をわけて法良孔明の秘書を傳へ  
てたつて考をたれ。いふ事とせん。いふにれ軍者うとととく見  
やもしてるもとあつた。地平まうた。海列り。今天下一統せど  
て天子とらうらう。此をせり。労苦とらう。あつた。つるもの命を傳へ

たつた。とらひむと。おとら。ちるの。天地の利も人れ。和ま。あつと。人事を  
つと。たつた。とまう。たつた。い。る。あ。つ。り。と。天。愛。わ。り。た。あ。と  
い。よ。か。つ。と。ま。あ。つ。と。只。一。つ。よ。老。居。れ。た。と。ま。と。り。敵。と。あ。り。は。と  
計。た。つ。と。と。あ。り。お。う。と。か。ん。と。う。初。と。あ。り。ひ。と。れ。と。法。華。と。い。と。そ  
福。遠。ま。と。あ。つ。た。れ。く。は。は。空。海。と。て。ま。あ。つ。り。た。れ。か。今。子。礼。と。あ。つ  
ま。あ。つ。た。れ。び。あ。ひ。ね。方。礼。と。せん。や。ま。い。ひ。後。は。只。と。と。六。氣。か。り。の  
い。ひ。と。と。高。皇。清。と。い。は。る。れ。吉。相。の。ひ。あ。つ。た。れ。と。六。の。程。總。と。あ。つ  
ま。あ。つ。た。と。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。い  
と。た。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。い  
と。ら。ひ。て。我。等。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。い  
あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。あ。つ。た。と。と。い





とらうよびつけわくわくする神意をいひては金銭勝利を  
ほふるうごひるがらるるの神力をままあやさん毛  
神念共の神志は利益を度とす乃ちまてきりしるるれ  
はつとて百後あがれ打を射あひんぞはあは神助のまどろ  
命とす付らよ三おてうり立降の真意見れ神徳を感  
徳よあしと事たと方後と所わさ我とあつてゆりせんあ  
せんひとくふぬ人下とせんきん毛は信業の計略なり西望して  
徳率れ心勝しく思はゆふ何とせんけませ勢ひのまかせん  
かあよ衣表あがらふふ事ある神と百文做より人神助か  
こつけ字表れれをわくくしてらまぬせんごあれ樹るりともわり  
せん二人の又好まうが神助のりり希代乃祈智るまを  
ままのくを威しき方表賊はた指海利まは虎高安あまよひとら  
らつて金陵よあつまるあくせんやあよ毛一よとらりけあよせ  
さむちあわかりせん我々の難をまむひ階ちり七のく  
と怪跡を引かき一巻を目よつてくまうかあくせんとも  
ちも昔樂器をたけ合あ方器まきとめ陣とらうと真辨器  
毛雲虎端乃をるまらしくあて矢ととまう一巻砲石矢矢を  
るりてきり射とらうかたれは神助方手負死人射とまら水快  
乃あひなよりうらまはれ連なるれは方よりけまらりあれあがとく  
射き方と味方れ甲兵事ともせむあくせんがわ知よつてくぬれた  
うとともいふら七款れもの巻腹とらあひ年影を切てあつる  
まらだに西とやうと切られまらえの夷儀えあつと西あけい

陛下の御心を今日も天下にひけぬの軍を大に御心と一人もの  
くまおとれ生補とのたときをて下おせしん八尋釋万れりたり  
るあからまきあつてあひひめ。またおのびををんと強むらおきん  
迎むあまのひそよまを度ひ勢や中より異三種を治とあらん天比  
余らあて難難ををさしりび三人の書神を叙神ををのまめ  
ぬぞく生補ひ良とよ色もまらなる雲を雲としてまき。病  
仙徳れあめあまらまきや人をもまきまきまきまきまきまきまき  
礼をせあつてまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
帝はは前よりつるあつてまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
つるまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

跋

森宿部成功は日本に補部平戸の死を  
母が和國乃和乃字は用ひ父は唐人唐の音とて  
がひて和藤内三宿と似やりまき名と付て仕  
ひれ時より武藝は嗜し別強武勇智謀兼彼の  
人傑渡唐して明朝軍創乃大功ととげぬ信  
永曆皇帝其戦功は貴トて爵とと給平  
王小封ト号は賜つて國姓は命ととまきまき

奇心乃術ハ和朝ニ捕心成リ謀氏宗トシテ勇  
徳ノ力業ハ辨慶朝比奈ガ博ヒト後ゲ里家  
よ長濟よ云トリ此老人ありて書よあり國  
姓爺ガ芳飲トテのハ柄を子一今日前リ  
見一とく緒もねると甚ましく是ハ年加へて歌  
よ聲一とく負れ人の目ハより一ガ  
しよのほじ

好文堂

...

